

1年越しの生コンセミナー

日本コンクリート工学会（JCI）中国支部（中村秀明支部長）は10月27日、オンライン方式で生コンセミナーを開いた。約100人が参加した。同セミナーは、昨年中止となつたJCIのコンクリート工学年次大会で企画していた内容をベースに、その後の技術開発の動向について発表した。パネルディスカッションは行わず、講演に関する質疑応答のみとした。

先端的技術を紹介する中で、これからの製造、運搬などに役立ててほしい」と述べた。

コンクリート用化学

イブの収縮低減剤は対象外であること、収縮低減剤の性能は、収縮低減剤を使用したモルタルと収縮低減剤を使

するスラッジ（乾燥ペース）は年間135万トと推定され、その多くは廃棄されている現状を説明。そこでスラッジ固形分の一部をセメントの代替として利用するスラッジの高度利用に向けて、島根

アルタイムに把握し、かつスラッジ水を自動で安定化させる装置が開発され、工場で検証したことなどを報告した。

ト、スマートフォンから①稼働状況（出荷量やバッチ数など）②計量実績の情報（材料ごとの計量設定値や計量実績値など）③エラー情報（操作盤で発生したエラーの内容）④損耗管理（プラントの累

タマーサポートセンターがトラブル発生から復旧までアシストする「データお預かりサービス」などについて説明した。

鹿島建設の柳井修司氏は「動画画像分析を活用した生コンクリートの全量・リアルタイム受入れ管理」の題で講演。現場での荷受け時に撮影した画像を使つたスランプ値の推定や、連続R工水分計による単位水量の測定といった技術について紹介した。

ラートを発信して、受入れない仕組みになっている。一方で、コンクリート全量の性状が把握できるようになり、これまで見ることでできなかったものが見え始めている」とし、現在の試験方法による検査結果との関係についてはこれから検討課題とした。

最新の生コン技術紹介

JCI中国スラッジ高度利用など

用していないモルタルの性能を比較して、判定することなどを紹介した。

続いて、島根大学の

大学、広島地区生コンクリート協同組合、ま

造る操作盤について」の題で講演し、同社の最新型超高機能操作盤「Cyber・Advance（サイバー・アドバンス）」で行える機能として、インター

また、操作盤のプログ

柳井氏から、スランプについて、現行の試験方法や測定誤差、検査の許容値に対する考え方への質問があり、柳井氏は「当初の開発コン

同時配信とする「わかりやすいコンクリート」講習会を開催することを紹介した。

規格外品を除外

閉会あいさつで秋田知芳氏（山口大学）は、今回のセミナーは中国支部初のオンラインセミナーで、遠方からの参加者も多かったと報告。第2弾として、12月10日に対面式に加え、オンライン形式で

同セミナーに先立つて、中村支部長がセミナーの開催経緯を説明し「生コンに関する最

クリートと練り混ぜて使う収縮低減剤が対象であり、硬化後にコンクリートへ塗布するタ

演。生コン工場で発生

安定剤の濃度といった

パソコンやタブレット

ることで、同社のカス

を説明した。

たものを除外することであり、規格外品はア